認定生産方式革新実施計画の概要

2025年９月16日認定

○衛星リモートセンシングを活用し、可変施肥による生育の均一化や収穫順の調整を行う。
○収量・水分データを乾燥調製施設へ持ち込む前に事前に共有することで収穫・受入の効率化を図る。
○生産履歴・作業軌跡のデータを集約し、組合内で共有・分析することで経営の効率化を図る。

経営上の課題

・秋まき小麦に関しては、収穫時の天候で作柄が大きく変わり、特に雨により穂発芽になり製品にならない事も起こる事から、迅速な収穫、乾燥調製施設への集荷の効率化が重要。
・大豆に関しては、収穫時の受け入れできる子実水分が決められている為、迅速な収穫が求められる。

スマート農業技術を活用した生育の均一化や収穫作業の効率化を図る必要

申請者：

きたささばくさくくみあい
北笹麦作組合（北海道鹿追町）

対象品目：

小麦・大豆

スマート農業技術：

衛星リモートセンシングの活用
収量コンバインによるデータ取得
農作業自動記録システム＋高精度測位サービス

新たな生産方式：

上記のデータを組合内で共有・分析し、栽培管理や収穫作業、労働投入量の分析に活用

活用予定の支援措置：

補助事業の優遇措置

計画の概要

スマート技術

衛星リモートセンシング

収量コンバイン

農作業自動記録システム
＋高精度測位サービス

新たな生産方式

穂水分を計測し
組合内で収穫順を調整

データに基づく追肥
により生育を均一化

収量データに基づいた
施肥により生育を均一化

収量・水分の情報を
乾燥調製施設と共有し
受入・収穫を効率化

圃場ごとの労働時間
や作業軌跡を集約し
労働投入量を分析

組合内で分析し、次年度の営農計画や作業体系を最適化